2013年10月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第441号

地方小出版 情報誌 アクセス

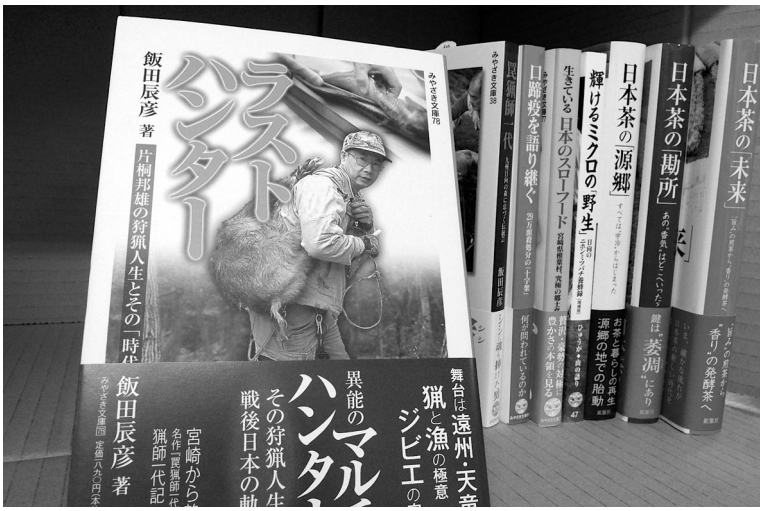
毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

宮崎県北の深い山里、椎葉村に憑かれたように通い 地元に根を下ろす出版社と出会う

“生きた”文字で書きたい

文・飯田 辰彦



鉱脈社から刊行されている飯田氏の著書、10月には新作『罠師　片桐邦雄』が刊行される

もともと全国の山村をたずね、そこの暮らしや生活文化を雑誌に書き、さらには単行本にまとめるという仕事を生業にしてきた。そうした過程で運命的にたどり着いたのが、宮崎県北の深い山里、椎葉村であった。椎葉では、ほかの山村ではとうに廃れた民俗文化が最後の光芒を放っていて、おのずと私のまたとない仕事のフィールドとなっていった。

憑かれたように椎葉に通うなかで、地元（宮崎）に根を下ろす出版社があることを知った。宮崎市田代町に本拠をおく鉱脈社である。はじめてそこを尋ねたのは、もう十五年も前のことだ。記憶をたどると、取材で椎葉山中をほっつき歩いていたとき、同年代とおぼしき女性と鉢合わせをする。あとで分かったことだが、この女性こそ鉱脈社の専務で川口敦己社長の夫人である道子さんであった。

たぶんこのとき、専務から「一度、会社に遊びに来ませんか？」ぐらいのことをいわれたのだと思う。それから四～五年たって、川口社長との対面が実現する。話が進むうちに、意外な事実が判明した。川口社長が私の出身高校（静岡県立榛原高校）の先輩で、異郷で苦節の末に出版社と印刷所を立ち上げた経緯を聞かされたのである。そのときは、「こんな出遭いもあるんだなぁ」と、人間の巡り合わせの不思議に、呆気にとられるばかりだった。

これが縁となり、鉱脈社で拙著（単行本）の出版が検討されることになった。手始めは、月刊誌で連載していた椎葉の食文化についての記事の単行本化であった。それは『生きている日本のスローフード』とタイトルされてリリースされた。それまで、拙著は東京の比較的大きな版元から刊行されるのが常で、これが地方の出版社から世に送り出される最初のケースとなった（2005年10月刊）。

この出版を通して、いままで知り得なかった出版界の事情・構図というものを、若干なりとも垣間見れたような気がした。感じたことはいくつかあるが、その最たるものは、久しぶりに“出版（業）の志”という言葉を思い出させてくれたことである。版元の腰がしっかり座っていない限り、筆者サイドも百パーセント本音で原稿を書くことはできない。その点で、商業主義に流れやすい東京の大手版元との差を身をもって感じられたことは、得難い体験であった。

以来、鉱脈社から九冊の単行本を上梓し、この十月には十冊目が刊行されようとしている。今では、東京の出版社に原稿を持ち込むこともなくなった。周囲は、刷り部数の少なさや出版社の知名度の低さを心配してくれるが、逆に地方小出版の版元（つまり鉱脈社）にはそうしたデメリット（筆者にとっての）を補って余りあるメリットもある。

たとえば、私はノンフィクションの書き手であり、大部分の作品は“旬”ということを考えて、一気に書き上げることが多い。だから、出版社に原稿をあずけた後、何段階もの編集会議を経て、いざ出版されるのが一～二年後というのでは、作品化した意味がほとんどなくなってしまう。この点、小回りの利く鉱脈社では三ヶ月ていどで本にまとめてくれるから、ノンフィクションの書き手である私にとっては、その存在価値は計り知れないほど大きいのだ。

加えて、下手くそながら取材時に必ずフィルム式カメラを携行する私のこ

とを考えて、鉱脈社では積極的にカラー写真を作品の中に取り込み、“飯田様式”とでも呼ぶべき本造りのスタイルを確立してくれたことは、実に名誉なことだった。印刷所を併設する出版社でなければできない芸当であり、おかげでいまでは読者の間に、私の作品はカラー写真満載というイメージで定着している。オールカラーで三百ページ近い単行本（四六）の定価が二千五百円以下というのだから、これは破格以外の何ものでもないだろう。

ところで、私は携帯電話、パソコンをふくめ、デジタル機器は一切使わない。“主義”としてそうした機器を避けているのではなく、私の場合、若いころの原体験が尾を引いているのである。三十年も昔、中国・西安郊外の「碑林」を訪れた際、歴代皇帝や著名な書道家の手になる原刻碑に圧倒された。それは“文字は命を宿し、生きている”という衝撃だった。

その体験を引きずっている私は、デジタル機器の死んだ画面と対話する気など、さらさらないのである。それに、人類の文明（あればの話だが）をどう捉えるかは人それぞれだが、私は科学の進歩が人間の思考を豊かにするなどとは、考えたこともない。だから、そうした流れに安易に乗るつもりも、毛頭ない。原稿用紙と格闘しつつ、その升目（ますめ）を生きた文字（手書き）で埋める作業に、無上の喜びを感じている。

作品のテーマもおのずと、科学文明に翻弄され続けてきた環境、自然、民俗、伝統文化などに向かうことが多い。ここ二年ほどのうちに上梓した単行本でいえば、ニホンミツバチ、口蹄疫、日本茶、狩猟などをタイトルに揚げている。私はips細胞、遺伝子組み換え、宇宙開発、人工知能といったテクノロジーが、人類の明るい未来を担保するなどという幻想とも、無縁だ。

それは、生物の限界を認識できない傲慢（無知？）な技術者の、“危ない挑戦”以外の何ものでもない。今、この惑星にもっとも必要とされているのは、暴走を食い止めるたしかな“歯止め”ではないだろうか。十月刊の新作（『罠師　片桐邦雄』）では、それを主題としている。

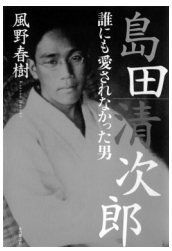
▽

（いいだたつひこ・ノンフィクション作家）

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『島田清次郎　誰にも愛されなかった男』●風野春樹著



島田清次郎は明治32年石川県生まれ。20歳の時に『地上　第一部　地に潜むもの』という作品で大ベストセラー作家となった。しかし、傲岸不遜な言動で文壇から嫌われ、24歳の時には、熱烈なファンだった海軍少将令嬢を誘拐監禁したとして告訴されてしまう。この事件後、バッシングや出版拒否にあい困窮。ある夜、血痕の付いた浴衣を着て人力車で通行中警察に連行され、精神病院に収容されてしまう。そして、31歳での早過ぎる死。著者は、これまでの評伝では入院後のことが何もわからないとして、書簡や雑誌等の記事に当たり、病院内での島田の様子を丹念に再現する。そこでわかったのは、病んでなお衰えなかった晩年の作家の創作意欲だった。

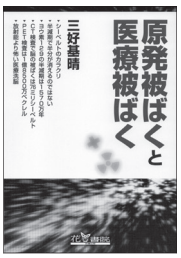
◆2625円・四六判・349頁・**本の雑誌社**・東京・2013/8刊・ISBN978-4-86011-245-5

『たまごちゃん、たびにでる』●フランチェスカ・パルディ著／おおにしよしみ他訳

ママのおなかの中はあたたかくてきもちがいいけれど、もうすぐ外の世界に出なくてはいけない。どんな“かぞく”にうまれるのか、ちょっと見に行ってみよう。たまごちゃんはいろいろな“かぞく”に会うために旅に出る。うさぎを始め、ねこやかばなどたくさんの家族に出会うたまごちゃん。みんな仲良く暮らしていて、どの家族にうまれてもいいなと安心する。本書はイタリアで話題の絵本。生まれる前はこんな風にわくわくしていたはずなのに、すぐに生活の重さに押し潰されて辛いと言ってしまう。でも本当は好奇心をもってこの世にやってきたという、よしもとばななのメッセージ付き。たまごちゃんの可愛い表情と共に新鮮な気持ちがよみがえる。

◆1575円・212mm×258mm判・21頁・**イタリア会館出版部**・福岡・2013/7刊・ISBN978-4-9901473-5-8

『原爆被ばくと医療被ばく』●三好基晴著

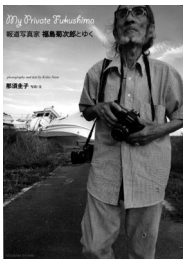


東電福島第一原発から2年余、放射能漏れによる影響はより深刻なものになっている。臨床環境医である著者は、原発被ばくのみならず、衣食住の生活環境内に有害物質が溢れ、放射線は医療被ばくの方が桁違いに大きいことの事実にも目を向けるべきであるという。

例えば頭部ＣＴ検査の被ばく線量は4.2ミリシーベルトで安全とされるが、臓器別にみていくと、目の水晶体90、脳76、甲状腺13ミリシーベルト、わずかとはいえ肝臓や大腸など被ばくは臓器全体に及ぶ。4.2は各臓器の平均値を実効線量というカラクリで表わした結果である。安全とは何か。専門家の隠ぺいと情報操作を見極める確かな目が市民の側にも求められる。

◆1575円・Ａ５判・196頁・**花書院**・福岡・2013/6刊・ISBN978-4-905324-60-7

『My Private FUKUSHIMA －報道写真家　福島菊次郎とゆく』●那須圭子著



瀬戸内の小さな町の裏通りで愛犬とひっそり暮らす報道写真家福島菊次郎、90歳。聴力、視力、足腰は衰え、カメラは埃をかぶっていた。その福島から託され、中国電力上関原発と向き合っているフォトジャーナリスト奈須圭子。フクシマと一連の動きを見守る二人の胸に、日に日につかえが大きくなる。そして2011年秋、フクシマへの二日間の旅に出る。カメラを構えると嘘のように敏捷になる福島だが、一旦膝をついたら立ち上がれない。地獄のような状況で、あくまでも踏みとどまって酪農を続けようとする夫婦の牛舎にへたり込みながらカメラを向ける。フクシマを知ってしまったものの責任と福島。二人のフクシマはこれから始まる。

◆3465円・Ｂ５判・125頁・**みずのわ出版**・山口・2013/8刊・ISBN978-4-86426-025-1

『那覇の市場で古本屋　－ひょっこり始めた＜ウララ＞の日々』●宇田智子著

2011年11月、沖縄県那覇市の第一牧志公設市場の向かい側に日本一小さいと思われる古本屋がオープンした。店主は元ジュンク堂那覇店勤務。沖縄に異動後、地元の出版社や古本屋と触れ合い、同人誌に参加したりしているうちに、閉店する古本屋を受け継ぐことになった。

本書にはそんな日々が淡々と綴られている。地元出版の盛んな沖縄で関連本をメインに扱い、三畳のスペースに本を並べながら、漬物屋や鰹節屋など近隣の市場の人とも交流し、沖縄独特の雰囲気もさりげなく伝えてくれる。店のロゴマークのフクロウも著者を見守っている。中国の古書イベント参加レポートや沖縄県の古書店データも掲載されている。

◆1680円・四六判・221頁・**ボーダーインク**・沖縄・2013/7刊・ISBN978-4-89982-241-7

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2013年8月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額（税込）表示です。

【雑誌】

◆**あおもり草子**　Ｎｏ．２１８　佐藤　史隆編　Ａ４　48頁　６００円　企画集団ぷりずむ　［青森］　978-4-503-19946-1　13/08

◆**飲食ＭＡＰ青森**　ＶＯＬ．１１　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　130頁　３００円　企画集団ぷりずむ　［青森］　978-4-906691-47-0　13/08

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４０４　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット　［埼玉］　978-4-905457-36-7　13/08

◆**ママともぷらす　東京ベイ・千葉版**　Ｎｏ．５４　湊　美紀枝編　Ａ４　87頁　６００円　明光企画　［千葉］　978-4-503-19953-9　13/08

◆**子どもと読書**　４０１号　親子読書地域文庫全国連絡会編　Ａ５　40頁　５５０円　親子読書地域文庫全国連絡会　［神奈川］　978-4-907376-01-7　13/08

◆**ＡＸＩＳ**　Ｖｏｌ．１６５　石橋　勝利編　Ａ４　120頁　１８００円　アクシス　［東京］　978-4-503-19956-0　13/10

◆**オルタ**　４４３　田中　滋編　Ｂ５　17頁　３１５円　アジア太平洋資料センター　［東京］　978-4-503-19944-7　13/08

◆**Ｂｅ！**　１１２号　Ｎｏ．１３４　今成　知美編　Ａ５　111頁　８４０円　アスク・ヒューマン・ケア　［東京］　978-4-901030-87-8　13/09

◆**地方史研究**　第３６４号　地方史研究協議会編　Ａ５　132頁　１２００円　岩田書院　［東京］　978-4-87294-964-3　13/08

◆**仏事**　Ｎｏ．１５５　清水　祐孝編　Ａ４　96頁　１５７５円　鎌倉新書　［東京］　978-4-503-19947-8　13/08

◆**仏事**　Ｎｏ．１５６　清水　祐孝編　Ａ４　100頁　１５７５円　鎌倉新書　［東京］　978-4-503-19957-7　13/09

◆**寺門興隆**　Ｎｏ．１７８　矢澤　澄道編　Ａ５　185頁　１１５５円　興山舎　［東京］　978-4-904139-82-0　13/09

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５０９　片岡　輝編　Ａ５　48頁　３０５円　子どもの文化研究所　［東京］　978-4-503-19959-1　13/09

◆**子どもと本**　第１３４号　子ども文庫の会編　Ａ５　48頁　６２０円　子ども文庫の会　［東京］　978-4-906075-38-6　13/07

◆**茶道の研究**　Ｎｏ．６９３　三徳庵編　Ａ５　80頁　５２５円　三徳庵　［東京］　978-4-503-19941-6

売行良好書　期間：2013年8月16日～9月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『点滴ポール　生き抜くという旗印』1470円・ナナロク社　(2)『庭園の中の三人　左と右』1260円・東京子ども図書館　(3)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク　(4)『出雲大社　平成の大遷宮』3150円・山陰中央新報社　(5)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社　(6)『もうひとつのこの世』2310円・弦書房　(7)『食は薬なり』1260円・金壽堂出版　(8)『赤とんぼ』1890円・長崎文献社　(9)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社　(10)『ビルマのゼロ・ファイター』1575円・中国書店　(11)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社　(12)『学生や市民のための生物多様性読本』2520円・南方新社　(13)『長い道』1995円・桂書房

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］※税込み価格

(1)『東京かわら版　９月号』420円・東京かわら版　(2)『謎の独立国家ソマリランド』2310円・本の雑誌社　(3)『昭和プロレスマガジン　３０』1000円・昭和プロレス研究室　(4)『島田清次郎』2625円・本の雑誌社　(5)『石心』1785円・石風社　(6)『吉本隆明と「二つの敗戦」』1575円・脈発行所　(7)『＜未来＞との連帯は可能である。しかし、どのような意味で？』735円・弦書房　(8)『もうひとつのこの世』2310円・弦書房　(9)『ひとり出版社「岩田書院」の舞台裏　Ｐａｒｔ３　２００８～２０１３』1575円・岩田書院　(10)『子どもの心をわしづかみにする「教科としての道徳授業」の創り方』2100円・学芸みらい社

［ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『那覇の市場で古本屋』1680円・ボーダーインク　(2)『ビーチコーミングをはじめよう』1890円・木星舎　(3)『＜未来＞との連帯は可能である。しかし、どのような意味で？』735円・弦書房　(4)『八月のフルート奏者』1785円・書肆侃侃房　(5)『希望よあなたに』945円・編集工房ノア　(6)『北条氏年表』2625円・高志書院　(7)『Ｍｙａｋｕ　Ｖｏｌ．１７』945円・脈発行所　(8)『私の思い出ホテル』1890円・編集工房ノア　(9)『もうひとつのこの世』2310円・弦書房　(10)『不思議な子どもたち』1575円・ボーダーインク　(11)『奥多摩東部登山詳細図　全５８コース』800円・吉備人出版　(12)『手賀沼をめぐる中世１　城と水運』945円・たけしま出版　(13)『奪絵婆』4800円・東北出版企画

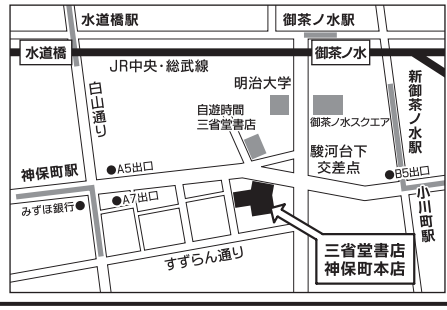
以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼明治大学の生涯教育機関であるリバティアカデミーと本の街神保町を元気にする会が、一昨年、昨年に引き続き、神保町において読書の意味や本の可能性について考えると共に、街の歴史や文化を知ることで神保町の町づくり支援の輪を広げようと、今年も公開講座を開講します。今年のテーマは『**神保町と近代出版100年　本の街・神保町で考える part3**』。「本の街・神保町界隈には、1877年創業の有斐閣をはじめ、2013年に100周年を迎える岩波書店など近代日本の出版史を飾る版元がたくさんあります。本の街・神保町を舞台に、これら出版社の成立と発展を通して、近代日本の出版の歴史をたどってみようというものです」（リバティアカデミーサイトより）。会場は明治大学駿河台キャンパス　アカデミーコモン11F。開催日時は10/5、10/19、11/2、11/16、11/30の各土曜日、フィールドワーク12/4（水）それぞれ13:00～14:30。受講料は全6回5000円。詳細は、URL　https://academy.meiji.jp/course/detail/1377/　TEL03-3296-4423　FAX03-3296-4542　明治大学リバティアカデミーまで。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない
神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。